

今村賢太郎 著

書評・新刊紹介

芸南の海藻

Handbook of the marine flora of Geinan

本書は、瀬戸内海の芸南海域に出現する 160 種の海藻（および 3 種の種子植物）について、美しいカラー写真とともに、その形態、生育環境、伝統的な利用法などをまとめたもの。趣味として海藻観察を続けてきた著者の、15 年間に渡るフィールドワークの集大成である。基本的に 1 種で見開き 2 ページが使われ、押し葉標本の写真とともに形態がわかりやすく述べられている。水中写真や岩礁に露出した状態の写真なども多く載せられており、ページをめくる度にあたかも自分が磯に行ったり潜ったりして海藻を観察している気分になる。時折挿入される穏やかで美しい海辺の風景は、著者がこの里海をいかに愛しているかをさりげなく物語る。海藻採集のハンドブックとしてのみではなく、写真集としても大変楽しめる。

興味のある方は出版元である「貝と海藻の家」(tel 0823-70-8151) もしくは <http://www.hiroshima-cdas.or.jp/>



(財) 岡山文化振興財団, 変形 A5 判, 総頁 256 頁, 2008 年 3 月, 定価 1,500 円 (税込み)

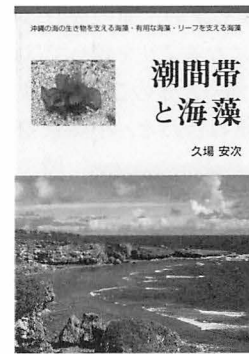
yunran/institution/kaitokaisou.html) にお問い合わせられたし。
(広島大学大学院生物圏科学研究科 小池一彦)

久場安次 著

沖縄の海の生き物を支える海藻・有用な海藻・リーフを支える海藻 潮間帯と海藻

これまでに無かったタイプのフィールドガイドである。昭和 19 年、太平洋戦争さなかのサイパンで生を受けられた著者は、昭和 41 年に琉球大学で卒論のテーマを藻類に定めて以来 40 年間、沖縄の潮間帯や淡水藻の生息地などを歩き続けてこれ、藻類教育と藻類保護に情熱を燃やしてきた。現在も沖縄県のレッドデータ分科委員（藻類）を担われ、シマチスジノリなど絶滅が危惧される淡水紅藻の保護にも関わっておられるほどである（藻類 第 55 巻第 3 号 p. 210 参照）。その著者が上梓された本書は、沖縄に広がる海藻相豊かな潮間帯を、ほかでもない沖縄に暮らす人々に紹介するために執筆されたもので、通常の海藻図鑑などにはみられない独特の構成を持つ。

第 1 章の「潮間帯と海藻」は具体的な海岸が主役である。多種多様な海藻群落がカラーの美しい生態写真で示されているので、沖縄で採集地を決めるときにも大いに参考になるだろう。来年 3 月の日本藻類学会第 33 回大会は琉球大学で開催される（本誌色紙ページ参照）。その機会に海藻採集を計画されている方には必携の書である。第 2 章「有用な海藻」では、知られているようで知られていない沖縄産の食用海藻が紹介される。そこにはやはり本書を通底する沖縄の潮間帯への感謝と畏怖の念



新星出版, 変形 A5 判, 総頁 120 頁, 2008 年 6 月, 定価 1,260 円 (税込み)

が込められており、従って昆布などという輸入品は登場しない。第 3 章「石灰質を持つ海藻」は沖縄ならではのテーマで、本書をもっとも特徴付ける章である。大気中の CO₂ 循環にも貢献する（本誌 pp. 185–205 の岡崎恵視先生の総説を参照）といわれる多種多様な石灰藻が、琉球石灰岩の一部として沖縄島の骨格となり、建築物の石材にまでなっていることを著者は熱く語る。

海藻種の沖縄方言（地方名）も豊富な（第 2 版では、ぜひ対照表か索引が欲しい）、頁をめくるたび沖縄へ採集に行きたくなる魅惑の書である。 (編)

ご出版の予定をお持ちの会員へ 2007–2008 年に出版された御著書の情報をお寄せください。

必要事項 : ①書名, ②著者名, ③出版社, ④サイズ, ⑤頁数, ⑥出版年, ⑦定価 (税込), ⑧ ISBN

情報提供先 : 〒 305-0005 つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館
植物研究部 北山太樹「藻類書評・新刊紹介」係

Fax: 029-853-8401, E-mail: kitayama@kahaku.go.jp

